

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

事業名称	BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	1 在住フィリピン人の在留資格別状況(以下、人口動態の資料協力：浜松市) 2020年9月1日現在、浜松市の外国人住民数は25,454人で、そのうちフィリピン人は4,020人と、ブラジル人に次いで多く微増している。フィリピン人の状況は以下の通りであった。 ・年齢別では、15歳以上～65歳未満が3,584人にも上り、生産年齢者の割合が高い ・男女比では1:2の割合で女性が圧倒的に多い ・在留資格別の特色は、地位等類型資格者(以下、「身分系資格者」と記す)が全体の84・8%を占めており、家族の絆で定着している こうした状況にある身分系資格者らのいっぽうで、2019年4月には新たな在留資格「特定技能」を新設する改正入管法が施行された。そのため、活動類型資格者(以下、「就労系資格者」と記す)の来日の加速も見込まれるため、地域社会の一員として取り込む「生活者としての外国人」とは今後、幅広い在留資格の在住者を捉えていく必要があった。
	2 世代や在留資格ごとに見た日本社会との結びつきへの課題、日本語習得状況 当地区に暮らすフィリピン人は、同じ国にルーツを持ちながらも来日時期、事情の分散と複数の環境要件を併せ持ち、様々な背景の人々が混在している。彼らを日本社会の中に埋没させないために個々のニーズとレディネスを捉え、それぞれに適した形態で集まれる場所の提供することが求められていた。下記、本取組で接した人たちの生活上の課題と日本語学習の状況・能力について記す。
	①学齢期を超えて来日する若い世代(学齢期超) 学齢期を超えた子どもたちは来日直後、社会の中に居場所がない。この状況が長引くと「日本語を学ぶ場がない」「SNSやゲームの中に留まり、実体験として日本社会との接点が希薄」という期間を過ごしたまま大人になっていく。やがて定住し、近い将来、日本社会を支える重要な存在になることを考えると、彼らに「体験学習の機会の提供」や「初期適応支援」を行い、日本社会への入り口に背中を押す役割、存在が必要であった。
	②滞在年数の長い中高年(とくに女性が多い) 1990年代、興行の在留資格で夜、飲食店に勤めた女性たちが中高年に差し掛かっている。今も飲食店に勤務している人もいれば、すでに工場勤務に転職して何年も経つという人もいるが、コロナ禍を受けて転職希望者がこれまで以上に増えている。この人たちの強みは日本での暮らしについて、経験から推測する力があることである。また、読み書きへの苦手意識は強いが、できないわけではない。ゆっくりではあるが読める上、読むことで「音」に変われば内容の理解もできる。また、聞くことと話すことには長けていることが多い。こうした特技はコミュニケーション能力の高さにつながっている。そのため、その能力を生かして、サバイバルで身に付けた日本語のステージを上げられるような教室の存在が求められていた。
	③日系フィリピン人の存在 日系フィリピン人は日本語能力が高い人に頼って生活していることがある。派遣会社が用意する車で職場まで往復している人もたくさんいる。結果、日常生活の中で困ると感じる事が少なく、日本語学習の必要性和機会をあまり感じてはいない。この人たちについて、当法人では日本語学習以前に、地域社会との接点が希薄なことを憂慮している。まずは、同じ地域に暮らす全ての人にとって必要な知識と備えとして、「防災・減災」に関するテーマを題材に、住民同士が交流する必要があった。本日本語教室はそのような「つなぎ」としての場づくりにも貢献できたと考え。
	④就労系在留資格者 この人たちは身分系資格者とは全く反対で、「『読み書き』より『話す・聞くこと』が苦手だ」と言っている。生活上における聴解は、日本の背景知識がないために手掛かりとなる推測ストラテジーが乏しい。そのため、「体験」と「日本語の音」が結びつくような日本語支援が求められていた。この点は、当法人がこれまで身分系在留資格者に対して行ってきた日本語指導、生活相談等の活動を、そのまま就労系資格者に移行して活用できた。また、在住歴の長い身分系資格者の中にも知見、素養を生かした人も現れているので、当法人は外国人コミュニティとして、そのメリットを活かした教室運営が展開できた。
	3、従来の地域日本語教室の見直しと、支援者の意識変容の必要性 全国的に身分系資格者は「読み書きが苦手」という自覚を持っている。また、日本社会からもそのように思われている。地域日本語教育の慣習として、ひらがな・カタカナの読み書きができないといつまでも初級クラスで受け入れる傾向にあるが、このことが本人たちの学習意欲を削いでいた。日本語能力についての劣等感や不安な思いを持ち続けたまま、この国にこれからも長く暮らすというのは本人たちにとっても、社会にとっても限界が来ていた。今後、地域日本語教室はこうした状況に、就労系資格者たちも迎え入れることになるが、そうすると、ますますレベルもニーズも多様化していくことになる。高齢化が進む日本においては、引き続き将来を見据えた人口構造への準備として、多様な人たちが集まる教室での指導力、引率力が、教師の側にも求められている。
	4、本事業での経験と特色を生かした人材育成 個人ごとに来日背景・生活様式などが違うので一様に表現することは難しい。そのため本事業の人材育成では、「多様な『生活者としての外国人』を日本社会に結びつけられる人」を目指した。日本は欧州評議会のCEFRを基にし、「日本語教育の参照枠」を作成する段階に入ったが、ここに書かれている「目指すもの」を見ると、学習者個人の能力(日本語の熟達度)と、社会が歩み寄るという双方の寄せ合いで、社会構造を維持していくように読み取れる。そのため、学習者にどのように向き合うかはもとより、指導者自身が社会とどのように向き合うか、あるいは学習者と社会をどのように結びつけ、自身はどのように関わるか、さらに関わるすべての人たちの人生を豊かにすることを常に考え、カリキュラムにしたり活動に結び付けたりした。そのような大変高度で込み入った領域まで踏み込んだ人材の育成を目指した。
	5、時代に即した団体のあり方 本事業を受託して10年以上の歳月が経った。近年、国策として、外国人受け入れ状況は激動の時代に突入したが、だからこそ、我々は活動を通して様々な関わりが「定住外国人向け」といった動きに変わってきていることを実感していた。 一昨年4月の入管法の施行により「特定技能」の受け入れを後押しできるものと思っていたが、実際には企業が技能実習と特定技能をうまく組み合わせ、一人の人材を最長10年採用するという風潮になってしまった。こうした中、技能実習制度に収まっているから目に見えない、上がってこない問題点を耳にすることもあった。これまでは外国人の自助努力団体として身分系資格者の声を拾い上げることを得意としてきたが、今後は在留資格の枠を超えて、また、日本人と外国人という垣根も超えて、問題点や困りごとが社会に埋没されないようにしなければならない。

事業の目的	定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと ・体験と交流を通じた日本語教室を展開し、日本社会の中で「できること」を増やすこと ・公的機関が発行する「やさしい日本語版」の文書を教材にし、サバイバルで身に付けた日本語を整理すること ・いずれの教室活動の中でも自律学習のアドバイスを取り入れ、教室の外でも学習者が学べる力をつけること ・教室内容を録画配信することで、クラスに来られない「生活者としての外国人」も取り込むこと ・フィリピン人が集住する地区に教室を設置し、生活情報を題材に地元住民との交流を図ること (浜松市が実施する「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業(文化庁委託)」のカリキュラム修了直後から、同会場にて継続実施) ・公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、多様化している外国人の来日背景や在留資格などの状況を、地域全体はもとよりオンラインを使って全国規模で理解すること(人材育成事業)
本事業の対象とする空白地域の状況 (空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要 (課題をどのように解決するのか分かるように記載)	●日本語教育の実施 ①青年のためのバヤニハン日本語教室 ・来日して間もなく、日本語能力が入門・初級の若者が、体験を通して学ぶ場を提供した。 ・日本人と意思疎通、交流を図りながら実生活の中で<u>できること</u>を増やした。 ②大人のためのバヤニハン日本語教室(中区)「生活情報提供」と「交流活動」を取り入れた ・行政文書をはじめとする「やさしい日本語」で書かれたレアリアを教材として使った。 ・サバイバルで身に着けた日本語を整理・ブラッシュアップし、各自が持っている今のレベルを上げられる実感が得られるように工夫した。 ・日本語を使った交流を通して、「<u>できる</u>」という実感を増やすような取組をした。 ③大人のためのバヤニハン日本語教室(浜北区)「防災」のテーマを取り入れた ・浜松市が文化庁より委託を受けて行う「地域日本語教育の総合的な体制づくり整備事業」にて、先発で教室設置をしているので、本事業はそれとスケジュールを調整し、後を受ける形で同地区にて展開した。 ・「防災」のテーマを通して、「命を守る」ために必要な情報・知識を提供し、近隣住民との連携を促す内容にした。 ●日本語教育を行う人材の養成、研修の実施 ・移民受け入れ時代の教育のあり方、受け入れ社会のあり方を、社会情勢や地域課題を通して学んだ。 ・外国人と日本人が相互学習となるような場づくりを考えられる内容にした。 ・参加には、オンライン会議システムzoomを使った。これにより、全国で同じ課題を抱えている人たちとともに学び、連携した。 ●日本語教育のための学習教材の作成(④教材作成) ・行政などと連携し、日本語学習項目を補填した(日本語教室の教材としても使えるようにした)。 ・教材は運営委員会でも助言をいただいた。 ・できあがった教材は当法人のHPに掲載し、外国人コミュニティが運営する日本語教室のロールモデルとなり、全国に普及することを引き続き目指す。
事業の実施期間	令和3年5月～令和4年3月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	澤田直子	浜松市教育委員会 学校教育部 指導課 主幹 教育総合支援セ ンター	外国人グループ長
2	鈴木エバ	①NPO法人フィリピンナガイサ ②静岡県立浜名高等学校定時 制／③静岡県立浜北北高等学 校定時制④浜松市教育委員会	①バイリンガル 指導者 ②③④タガログ 語通訳支援員
3	鈴木三男	浜松市企画調整部国際課	課長
4	清ルミ	常葉大学 外国語学部	教授
5	高貝亮	浜松綜合法律事務所	弁護士
6	前嶋康寿	静岡県経済産業部(産業人材確 保・育成担当)	理事
7	松本義一	①特定非営利活動法人フィリピン ナガイサ 代表理事／②静岡県 立浜名高等学校定時制／③静 岡県立浜松工業高等学校定時 制	①代表理 事 ②③非常 勤講師
8	村松辰芳	静岡県経済産業部(産業人材確 保・育成担当)	会長
9	村松正利	村松正利行政書士事務所	行政書士
10	吉開章	①株式会社電通 新聞局／②やさ しい日本語ツーリズム研究会	②主宰



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年7月20日 (火) 15:00～17:00	2時間	浜松市南部協働センター／zoom	清ルミ、村松辰芳、高貝亮、村松正利、吉開章、澤田直子、鈴木三男、鈴木エバ、松本義一、半場和美	・委員会規約の制定 ・正副委員長の選出 ・本事業趣旨説明、地域の実情と課題に即した本取組の計画について
2	令和3年12月6日 (月) 15:00～17:00	2時間	浜松市南部協働センター／zoom	前嶋康寿、村松辰芳、高貝亮、村松正利、吉開章、澤田直子、鈴木三男、鈴木エバ、松本義一、半場和美	本取組の中間報告 ・人材育成講座の報告 ・日本語教室の報告 ・教材作成に関わるワークについてのご相談
3	令和4年3月8日 (火) 15:00～17:00	2時間	浜松市南部協働センター／zoom	村松辰芳、高貝亮、村松正利、吉開章、鈴木三男、鈴木エバ、松本義一、半場和美、山浦優子	年度末の報告 ・人材育成講座の報告 ・日本語教育実習生の受入について報告 ・日本語教室の報告(「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を使って) ・文化庁事業から発展した他地域への広がり(講師派遣依頼など)

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・当法人が持つSNS上のネットワーク、地方公共団体や近隣の国際交流協会に情報提供、フィリピン人によるクチコミで参加を呼び掛けた。 ・浜松市が行う文化庁の「地域日本語教育の総合的な体制づくり整備事業」をはじめ、近隣他団体が主催する日本語教室と日程やカリキュラムに関する情報を共有、連携した。地域の中にある多様な学習ニーズやレベルに対して、多くの教室や学びの形態から選べるようにした。 (日本語教育を行う人材の養成・研修の実施) ・令和2年度、本事業・本取組のほとんどをオンライン会議システムzoomにて開催した。結果、全国の地方公共団体職員、国際交流協会、日本語教育関係者などから広く参加していただいた経緯があり、この方々を中心に呼び掛けたところ、さらなるクチコミで参加に結びついた。講座終了後はメンバーリストを作成し、より一層の連携を図ることにつながった。 ・全講座を浜松市に共催を、(公財)浜松国際交流協会に後援を申請し、協力を得た。また、最終回に実施した「フィリピン語スピーチコンテスト」は「第11回はままつグローバルフェア」の場を借りて実施した。 (日本語教育のための学習教材の作成) ・国や地方公共団体が定住外国人向けに発行している文書や情報提供素材で「やさしい日本語」になっているものを教材に活用した。 ・本事業で日本語教材として取り扱う内容について、当事者や地方公共団体等に相談したところ、継続して資料提供を受けている。 ・土業の先生方と協力し、専門的な内容については指示を仰いだ。 上記をもって、生活に必要な情報が、「生活者としての外国人」に届くようにする。また、住民同士の交流を促進する。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	半場和美 …全取組の整合性を図りながら、内部と外部(文化庁、行政、地域の関係機関や住民、本事業担当者ら)とを調整し、地域の連携を促進するよう努めた。そして、円滑な事業遂行のため、全体の指揮を執った。 松本義一 …主に日本語教室「青年のためのバイニハン日本語教室」のコーディネート・指導、「人材育成」での講師・コーディネーターを担当した。 鈴木エバ …主に「青年のためのバイニハン日本語教室」では指導補助を、「大人のためのバイニハン日本語教室(中区)」では指導を担当した。運営委員会では委員として参加し、フィリピンをはじめとする受講者たちの声を代弁して意見を述べた。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:バイニハン日本語教室】	
取組の目標	①青年のためのバイニハン日本語教室 滞在年数の浅いフィリピン人の若者が実生活で困らないような日本語学習の機会を提供する。「体験型の日本語教室(コロナウィルス感染拡大防止に配慮して)」と、「自己学習のHow toについて教授する」ことで、日々の生活の中で自律学習する習慣をつけてもらうこと。 ②大人のためのバイニハン日本語教室(中区)・③大人のためのバイニハン日本語教室(浜北区) 滞在年数の長い中高年のフィリピン人が、地域社会で活躍できるような日本語学習の機会を提供する。簡単な読解や読み書きのレベルを上げるような学びを取り入れることで、日常生活の中で身に付けてきた会話に重点を置いた日本語初級から、初級後半以上を目指すこと。
内 容	①青年のためのバイニハン日本語教室(1回2時間、全30回) ・各テーマを設定し、数回に分けて体験学習や調べ学習を通して学んだ ・テーマごとに振り返りをした ②大人のためのバイニハン日本語教室(中区 1回2時間、全30回) 「生活情報提供」と「交流活動」を取り入れた —日本に暮らす上で必要な情報(行政文書を中心に)を、適宜学習教材に取り入れた。 —文化庁日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでの暮らし(つなひろ)」を、下記の通り展開した。 ・サバイバルで身に付けた日本語を整理した。 ・学習者同様、補助者・ボランティア・日本語教育実習生など、全員参加型で協力した。タスク達成に欠かせない意思疎通に、日本語を調整したり(「やさしい日本語」)、フィリピン語や英語、スマートフォンのアプリを使うことを、積極的に取り入れた。共生社会実現に向けた理解者を受講者全員に促した。 ・ワーク活動を取り入れ、アクティブラーニングを意識的に取り入れた。 —専門性を有する内容については、ゲスト講師として行政書士、税理士の先生を招聘し、指導を仰いだ。 ③大人のためのバイニハン日本語教室(浜北区 1回2時間、全8回) 浜松市が文化庁から委託を受けて実施した「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」と連携し、教室設置場所を合わせた。そちらで入門として文字学習を終えた人たちが、生活に必要なテーマを選んで日本語を学んだ。なお、「防災」のテーマは必ず入れた。防災のテーマに関して、地元幼稚園の園長先生や会場の協働センター長の協力を得て災害時の避難に関する情報を得たり、交流を図った。 ※①～③いずれも教室活動の中で「わからない言葉や物」を調べ、教室の外でも自主学習できるようにした。その検索のコツや使いやすいアプリなどの情報を参加者同士でシェアしようような場をつくった。

実施期間	【中区クラス】【青年クラス】 令和3年5月29日～令和4年3月12日 【浜北クラス】 ①令和3年6月3日～6月26日 ②令和3年10月30日～11月20日					授業時間・コマ数	合計136時間 内訳は下記の通り 【中区クラス】【青年クラス】 {(1回3時間×4回)+(1回2時間×24回)}×2クラス =120時間 【浜北クラス】①②あわせて (1回2時間×4回)×2セット=16時間			
対象者	【中区クラス】【青年クラス】 「生活者としてのフィリピン人」 【浜北クラス】 「生活者としての外国人」(国籍問わず)					参加者	総数 81 人 (受講者 61 人, 指導者・支援者等20人)			
カリキュラム案活用	・「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を使って、カリキュラム作成の参考にした ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について」より、「毎回の学習の記録」のページを参考にポートフォリオを作成し、学習の記録を個々にためていけるようにした。 ・指導力評価項目一覧を参考に、教師とコーディネーターは日本語教育プログラムの点検・改善を適宜行った。									
使用した教材・リソース	・「つながるひろがるにほんごでの暮らし」 ・出入国在留管理庁監修「生活・仕事ガイドブック」やさしい日本語版 ・静岡県地震防災ガイドブック「やさしい日本語版」 ・浜松市「新しい生活様式」やさしい日本語版 ・令和3年5月に変更された「避難勧告は廃止、避難指示で全員避難(内閣府防災担当・消防庁発行)」 ・静岡県立大学国際関係学部・食品栄養学部作成「食べて健康になろう」多言語版 ・(公財)浜松国際交流協会発行「防災マップ」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			1						59	
	ドイツ国(1人),									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
中区1	令和3年5月29日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	10	自己紹介 オリエンテーション つなひろレベル1・シーン2	・自己紹介 ・牛乳はどこですか→フィリピン食材名称を入れて練習した ・ありがとう／どういたしまして→他のシチュエーションを考えて練習した ・生活情報提供(避難レベルの変更点コロナに関して浜松市長発表文書で確認)		半場和美	指導補助1名	
中区2	令和3年6月5日(土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	10	学校	・オリジナル教材を使って表現を覚えた ・学校行事や保護者会で使う日本語を覚えた		鈴木エバ	作業労務等補助1名 指導補助1名	
中区3	令和3年6月12日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	10	在留カードを見て書く	・在留カードを見て、書かれている項目を理解した・申込書を書く練習をした(住所・名前・在留期限など)		鈴木エバ	作業労務等補助1名 指導補助1名	
中区4	令和3年6月19日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	6	在留資格	・在留資格について ・「生活仕事ガイドブック(出入国在留管理庁監修)」を使って		①村松正利(行政書士) ②鈴木エバ(指導者)	講義補助1名 作業労務等補助1名 指導補助1名	
中区5	令和3年7月3日(土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	10	つなひろレベル2・シーン1	さまざまなシーンでの挨拶を覚えて使った		半場和美	指導補助1名 作業労務等補助1名	
中区6	令和3年7月10日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	13	つなひろレベル1・シーン3	・分からない売り場を尋ねた ・デパートの売り場や品物の名称を覚えた		半場和美	指導補助1名 作業労務等補助1名	
中区7	令和3年7月17日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	13	施設について調べよう	楽器博物館のウェブサイトから施設情報を読み取って理解した		半場和美	指導補助1名 作業労務等補助1名	
中区8	令和3年8月21日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	9	思い出を日記を書こう	夏の思い出を日記に書き記した		半場和美	—	
中区9	令和3年10月2日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	症状に関する言葉	・オリジナル教材を使って表現を覚えた ・「生活仕事ガイドブック」で情報共有		鈴木エバ	指導補助1名	
中区10	令和3年10月9日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	7	総合病院のかかり方	オリジナル教材を使って総合病院のかかり方と、そこで使われる日本語を覚えた ・「生活仕事ガイドブック」で情報共有		鈴木エバ	指導補助1名	
中区11	令和3年10月16日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	ジョブカードを使って自己理解を深めよう	・「ジョブカード(厚生労働省)」に英訳を付けて、職業人生を振り返るシート記入 ・自分について発表		加藤友裕	—	
中区12	令和3年10月30日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	ジョブカードを使って自己理解を深めよう	・「ジョブカード(厚生労働省)」に英訳を付けて、自分の価値観についてシート記入 ・自分について発表		鈴木エバ	指導補助1名	
中区13	令和3年11月6日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	7	VRTカードを使って仕事理解を深めよう	・VRTカードを英訳し、職業理解を深めた(仕事の種類や、適正を知った) ・日本版O-NETの検索をした		鈴木エバ	指導補助1名	

中区14	令和3年11月13日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	給与明細の見方	・「生活仕事ガイドブック」を使って、次週の 予習をした ・給与明細のレアリアを見て、語彙の勉強を した	鈴木エバ	指導補助1名
中区15	令和3年11月20日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	年末調整・確定申告	講師のオリジナル教材を使って年末調整・ 確定申告について勉強したり、質疑応答を した	税理士法人黎明祖父江会計 事務所(澤谷 智志・湊健一 郎) 鈴木エバ	指導補助補助1名
中区16	令和3年11月27日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	7	復習 つなひろレベル2 シーン10	・所得税や健康保険について、自分の言葉 で復習した ・中区14・15回の復習として、覚えた言葉を まとめるラップブック作成	半場和美	作業労務等補助1名 指導補助1名
中区17	令和3年12月4日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	つなひろレベル2・シーン12	・はがきの書き方を教えてもらう表現を勉強 した ・あけましておめでとうございます(オモテ 面)	半場和美	指導補助1名 作業労務等補助1名
中区18	令和3年12月11日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	7	つなひろレベル2・シーン12	・はがきの書き方を教えてもらう表現を勉強 した ・宛名面(ウラ面)	半場和美	作業労務等補助1名
中区19	令和4年1月8日(土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	今年の抱負	今年の抱負ややりたいことについて自己理 解を深め、発表した	半場和美	指導補助1名 作業労務等補助1名
中区20	令和4年1月15日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	つなひろレベル1・シーン11	つなひろレベル1シーン11-1「これすてたい です」を使って、勉強した	山下夏実(日 本語教育実習 生)	コーディネーター1名 作業労務等補助1名
中区21	令和4年1月22日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	つなひろレベル3・シーン1	つなひろレベル3シーン1-1「〇〇のくすり です」を使って、勉強した。	舩屋千真(日 本語教育実習 生)	コーディネーター1名 指導補助1名 作業労務等補助1名
中区22	令和4年1月29日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	自己紹介と住所(漢字)	新しい学習者がいたので、自己紹介の復習 と住所の書き方を復習兼ねて行った	半場和美	指導補助1名
中区23	令和4年2月5日(土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	注文	・つなひろレベル1シーン6-2「ごちゅうもん はおきまりですか」を使って、勉強した ・千以上の数字の読み方	半場和美	指導補助1名
中区24	令和4年2月12日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	電車に乗ってみよう	・つなひろレベル1シーン8-1「なんばんせ んですか」を使って勉強した。 ・日本の電車について話し合った(ホームの 多少、上り・下りなど)	半場和美	指導補助1名
中区25	令和4年2月19日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	静岡県・浜松市の地 形や特産について	方角や県内・市内の地形や特長について学んだ	半場和美	指導補助1名
中区26	令和4年2月26日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	防災・減災	非常持ち出し品について実物を見ながら名 称を覚えた	半場和美	指導補助1名
中区27	令和4年3月5日(土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	防災・減災	・つなひろレベル2シーン9「緊急のときは助 けをもとめよう」を使って、勉強した ・119番通報練習をした	半場和美	指導補助1名
中区28	令和4年3月12日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	4	復習	・復習をした ・学習者からの質問に応じた	半場和美	指導補助1名
青年1	令和3年5月29日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	5	6月トピック『公共交 通機関を使ってみよ う』	①日本の公共交通機関 ②浜松市の公共交通機関	松本義一	指導補助1名
青年2	令和3年6月5日(土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	5	遠鉄バスでHICEに 行く方法を学ぼう	①浜松市の地理と主要施設の場所 ②公共交通機関を利用してHICEまで行く方 法	松本義一	—
青年3	令和3年6月12日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	5	体験学習「バスに 乗ってHICEに行こ う」	①公共交通機関で使えるICカードの申し込 み手続き(実践) ②公共交通機関を利用して目的地を目指 す	松本義一	—
青年4	令和3年6月19日 (土) 13:00～16:00	3	浜松市南部 協働センター	6	体験学習の振り返り	①体験学習の振り返り ・単語の確認・共有 ・疑問に思ったことを共有・解決	松本義一	—
青年5	令和3年7月3日(土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	3	7・8月トピック『防災 について知ろう』	①災害の言葉を知ろう。 ②災害時の持ち物を考えよう。	松本義一	指導補助1名
青年6	令和3年7月10日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	地震について学ぼう	①「地震」に関する言葉を知ろう。 ②「地震」発生～避難までに必要なことを知 ろう。	松本義一	指導補助1名
青年7	令和3年7月17日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	大雨・台風・洪水に ついて学ぼう	①「大雨・台風・洪水」に関する言葉を知ろ う。 ②「警報」が発生してから、避難するまでに 必要なことを知ろう。	松本義一	指導補助1名
青年8	令和3年8月21日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	防災ポスターを作成 しよう	①復習 ②自分の防災ポスターを作成する。 (避難所、避難時の持ち物などを記載) ③ポスターの発表	松本義一	—
青年9	令和3年10月2日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	10月トピック『進路 について考えよう』	①自分自身の将来設計(現在～30歳まで) を考える ②将来設計図を作成	松本義一	—
青年10	令和3年10月9日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	3	進路①進学	①日本の教育システム ②高校・専門学校・大学への進学について 必要な知識	松本義一	—

青年11	令和3年10月16日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	4	進路②就職	①日本の就職システム ②仕事をする上で必要な知識・情報	松本義一	—
青年12	令和3年10月30日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	仕事について考えよう	①就職した先輩の話を聞く ②日本での仕事について質疑応答	松本義一	—
青年13	令和3年11月6日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	7	11月トピック『日本語学習について考えよう』	①日本語学習の目的を考える ②浜松市の日本語教室を知る	松本義一	—
青年14	令和3年11月13日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	浜松市内の日本語教室の紹介	①市内の日本語教室から、自分に合った日本語教室を探す ②探した日本語教室の発表・紹介	松本義一	—
青年15	令和3年11月20日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	自律学習について考えよう	①日本語学習の計画を立てる ②学習計画を計画表にまとめる	松本義一	—
青年16	令和3年11月27日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	12月トピック『病院について知ろう』	①体の部位の日本語を学ぶ。 ②症状を伝える日本語表現を学ぶ。	松本義一	指導補助1名
青年17	令和3年12月4日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	近くの病院を調べよう	①病院の「〇〇科」の種類を知る。 ②スマホを使って自宅付近の病院を調べる。	松本義一	指導補助1名
青年18	令和3年12月11日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	近くの病院を調べよう②	①自宅付近の病院をワークシートにまとめる。	松本義一	指導補助1名
青年19	令和4年1月8日(土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	5	1月トピック『オンライン学習について体験しよう』	①日本語学習サイトの紹介(文化庁、国際交流基金など) ②サイトを使った日本語学習体験	松本義一	指導補助1名
青年20	令和4年1月15日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	学習アプリの紹介	①日本語学習に役立つアプリの紹介 ②利用方法	松本義一	指導補助1名
青年21	令和4年1月22日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市南部 協働センター	6	Zoomの利用方法を学ぼう	①zoomの紹介 ②zoomのインストール、利用方法 ③zoom利用体験	松本義一	指導補助1名
青年22	令和4年1月29日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	学習者の要望に応じて個別対応	①学習者の日本語学習ニーズのサポート ・面接練習、作文練習、JLPT対策、日常会話練習、ひらがな・カタカナ	松本義一	指導補助1名
青年23	令和4年2月5日(土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	学習者の要望に応じて個別対応	①学習者の日本語学習ニーズのサポート ・面接練習、作文練習、JLPT対策、日常会話練習、ひらがな・カタカナ	松本義一	指導補助1名
青年24	令和4年2月12日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	学習者の要望に応じて個別対応	①学習者の日本語学習ニーズのサポート ・面接練習、作文練習、JLPT対策、日常会話練習、ひらがな・カタカナ	松本義一	指導補助1名)
青年25	令和4年2月19日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	2	学習者の要望に応じて個別対応	①学習者の日本語学習ニーズのサポート ・面接練習、作文練習、JLPT対策、日常会話練習、ひらがな・カタカナ	松本義一	—
青年26	令和4年2月26日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	3月トピック『生活に関するお金について知ろう』	①生活に必要なお金 ・生活費の目安(一人暮らしを例に) ②自分の1ヶ月の生活費を考えよう	松本義一	指導補助1名
青年27	令和4年3月5日(土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	日本の税金について知ろう	①生活にかかる税金 ②仕事に関する税金 ③社会保障について	松本義一	指導補助1名
青年28	令和4年3月12日 (土) 13:30～15:30	2	オンライン zoom	3	お得な買い物方法	①新しい決済方法 ・QRコード決済 ・ポイントカード ②浜松市の買い物に関する施策の紹介	松本義一	指導補助1名
浜北前期1	令和3年6月5日(土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	6	つなひろレベル1・シーン2	・子どものトイレトレーニングを想定し、キャラクター付きのパンツを量販店に買いに行く設定で練習した「すみません、キティちゃんのパンツはどこですか」(キャラクターの種類も日本語で覚えた) ・ほめる言葉を考えた	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名 指導補助・作業労務等補助1名
浜北前期2	令和3年6月12日 (土)13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	6	食育	静岡県立大学作成「食べて健康になろう」を教材にを使って、食材の名前や栄養素、食育について勉強した	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名 指導補助・作業労務等補助1名
浜北前期3	令和3年6月19日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	8	衣類着脱	子どもの衣類着脱から、洋服に関する語彙や子供のお着がえで「ほめる言葉」について学んだ	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名 指導補助・作業労務等補助1名
浜北前期4	令和3年6月26日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	10	自助・共助	・近隣幼稚園の園長先生がご参加された ・「生活仕事ガイドブック」を使った ・自分の体を守る、子どもを守るにはどうしたらいいか話しあった ・自宅近くの避難所を確認した ・近くにいる日本人で災害時に協力してくれる人について話し合い、シートに記入した ・災害時に有効な情報発信ツールのダウンロードをした	半場和美	原指導補助・作業労務等補助1名 指導補助・作業労務等補助1名
浜北後期1	令和3年10月30日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	6	病院	・つなひろレベル2シーン8ー1「かぜをひいたみたいです」を使って、勉強した ・スクリプトに出てくる語彙や名称を勉強した	半場和美	作業労務等補助1名

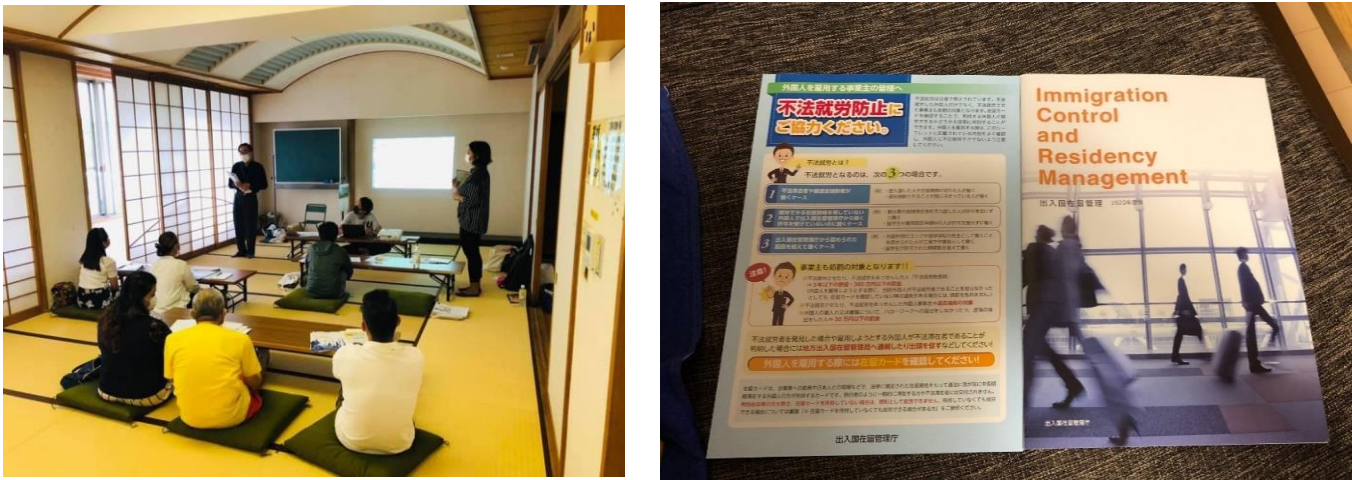
浜北 後期2	令和3年11月6日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	5	緊急事態	・つなひろレベル2シーン9「緊急のときは助けをもとめよう」を使って、勉強した ・119番通報練習をした ・どんな時に救急車を呼ぶか、グループで話し合い、発表した	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名
浜北 後期3	令和3年11月13日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	5	防災・減災	・つなひろレベル3シーン2-1「これがひなんばしよのマークです」を使って、勉強した ・静岡県や浜松市で発行している防災に関する多言語パンフレットを教材に取り入れた ・浜名協働センター長に協力を仰ぎ、館内防災ツアーを実施した	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名 作業労務等補助1名
浜北 後期4	令和3年11月20日 (土) 13:30～15:30	2	浜松市浜名 協働センター	6	復習	・復習をした ・学習者からの質問に応じた	半場和美	指導補助・作業労務等補助1名 作業労務等補助1名

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【中区:第4回 令和3年6月19日】
講師:村松正利氏(凝視書士)・鈴木エバ(バイリンガル指導者)
／
テーマ:在留資格について

これまで本テーマに際しては、講師(行政書士の先生)にオリジナルで配布資料を作成していただいていたが、出入国在留管理庁監修の「生活・仕事ガイドブック」ができたので、そちらをベース教材に使うことができた。必要に応じて、日ごろの相談ケースで多いものや気を付ける点などを入国管理局で配布しているリーフレットやウェブサイトのコピー、講師補足資料を用いた。



○取組事例②

【浜北前期 第2回 令和3年6月12日】
講師:半場和美
／
協力:浜松市立小松幼稚園・静岡県立大学
／
テーマ:食べて健康になろう(食育)

開講に際して、地元幼稚園より「近年、フィリピン人の園児が多く在籍し、とくに保護者との意思疎通の点で困っている。日本語教室へ通わせたい」と相談を受けていた。実際には幼稚園の先生方の思いほど、保護者に日本語学習のニーズはあまりなく参加に結びつかなかったが、熱心に通ってくれた保護者も数名いた。幼稚園からは母国との子育てに関する慣習の違いから生じる衣類着脱・食育・トイレトレーニング・読み聞かせなどで感じていらっしゃる課題を伺っていた。限られた回数で取り上げられるテーマを園長先生にご相談しながら決めた。当法人の日本語教室にとって、先述のテーマを取り上げるのは初の試みだったが、ちょうど同じタイミングで偶然、静岡県立大学より「食べて健康になろう」という食育教材の多言語版の提供を受けただけだった。さっそくこれを教材として使い、日本語学習や食に関する情報提供、理解促進を図った。子育てをするうえではいずれの国の親も「子供の成長を願って、良いことだ」と信じてやっていることが多い。例えば、粉ミルクを6歳ごろまで飲ませるなどは日本人は聞くと驚くがフィリピンでは珍しくないそうだ。これについては栄養面で「良い」と信じられていることもある上、フィリピンの輸送事情が芳しくないこともあり、液体よりも粉でミルクを運ぶことがあり、日本で言うところの牛乳の代わりに粉タイプのミルクを愛用していることもある…ということも、後に静岡県立大学の高畑教授から伺った。互いの文化的背景の事情を知ることながら、当事者たち(今回は幼稚園と保護者)も潜在的で説明できないことを、高畑先生のような専門家や当法人が介入することで互いの理解促進につながることもある。地域日本語教室の役割を改めて認識したテーマと会場であった。



(2) 目標の達成状況・成果

人材育成講座をきっかけに、「つなひろ」の活用について追求する機会を得た。また、10月に「日本語教育の参照枠(報告)」が出され、言語教育観の柱も明記された。これにより、教室活動の方針がより明確になり、私たちも外国人向けに日本語を教えるという方向だけでなく、地域社会を取り込んで多面的に教室活動を行うにはどうしたらよいか考えた。そこで、「つなひろ」を題材に、2つの軸を取り入れた。ひとつは「ポートフォリオによる学びの履歴を自己評価として記録し、自己効力感を高められるように促すこと」で、もう一つは「ワーク活動(アクティブラーニングの要素)の実施」である。また、「つなひろ」を使った理由はいくつかあるが、一つは日本語教育の経験が浅い人でも国が発行している教材という安心感と、Can Doが明確なので教室に関わる全ての人にその日のゴールがわかりやすいのではないかとしたことだった。今年度は、地元の静岡文化芸術大学より日本語教育実習生受け入れの打診を受けたこともあり、人材育成を兼ねた教室活動に「つなひろ」を使った事例を打ち出し、地域日本語教育と関わる人材養成のあり方を模索できた。結果、地域日本語教室に期待されている役割は多いが、一つでも多く取り込むことができたと確信している。この教室の日本語指導は職人技のようなところがあり、長年、無意識、感覚的に培ってきたことから継承する難しさを感じていたが、「つなひろ」を使った「教案の型」を作ること、指導者(ファシリテーション役)の意義を明確にすることができた(ご助言、ご協力:「つなひろ」作成メンバーの有田玲子先生)。

(3) 今後の改善点について

上述のファシリテーション力について、関わる人材のスキル向上と人員確保が必要である。日本語教師やバイリンガル指導者がこの役目を担うことになると思うが、それは教室活動の中で完結するものではなく、むしろ教室の中と外をダイナミックにつなげて交渉したり、協力要請をしたりすることができるよう求められる。日本語教育における目標は受講者も日本語教師も「定着」を求めがちで、現状は「同じ社会を作っていく構成員同士が、言葉を用いて学び合う」という視点が弱い。(2)で述べた通り、今年度のうちに「つなひろ」を使った指導を継承できる道筋が一つできたので、これを次年度以降、積極的に広げ、活用していきたい。なお全国規模で見た際、「日本語教育は地域の活力の向上に資すること」を検討すると、まずは一つの地区でロールモデルとなる事例を出すのが良いと考える。浜松市で言えば浜北地区にフィリピン人の集住、永住が増加しているの、当法人が日ごろ連携をしている協働センターや幼稚園、商工会、地元住民にも協力を仰ぎ、教室活動の周知を図り、共生社会への理解を伝えていきたい。

[illegible]

養成・研修の実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年9月20日(土) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	83	「地域」日本語教育にまつわる施策から、求められる人材の今とこれからを知っておこう	・国、自治体の取組と施策を知った ・市民団体の取組について話した ・日本語教師の自己理解の必要性について理解を求めた ・現行の日本語教員養成課程の課題点(地域日本語教育現場の場合)から、社会情勢とのつながりで、地域日本語教室に求められる役割についてを検討し、参加者に提言した。 ・本取組の趣旨に賛同していただき、初回を終えた	松井孝浩(文化庁国語課) 古橋広樹(浜松市国際課) 半場和美(当法人)	コーディネーター1名 作業労務等補助5名
2	令和3年9月20日(土) 15:30～17:30	2	オンライン zoom	83	海外の移民教育、複言語・複文化主義についても知っておこう	日本語教育の参照枠が取りまとめられている今、参考にしている「CEFR」とはどのような理念の言語共通参照枠なのかを知った	松岡洋子(岩手大学教授)	コーディネーター1名 作業労務等補助4名
3	令和3年9月23日(土) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	33	人口動態から「生活者としての外国人」のニーズ分析を行い、実践的な活動の連動について考えよう	・フィリピン人特有の来日状況や在留資格、労働・婚姻・人口動態など、レディネスへの理解を深めた ・実際の調査事例(令和元年度静岡県における地域日本語教育実態調査)から、日本語学習のニーズを探った ・フィリピン人に特有の支援ニーズは何か?／どのような日本語教室なら、これまで学べなかった(学びづらかった)人たちが学べるようになるかと考えるか／をグループディスカッションで考え、理解を深めた	高畑幸(静岡県立大学教授)	コーディネーター1名 作業労務等補助1名
4	令和3年9月23日(土) 15:30～17:30	2	オンライン zoom	33	「生活者としての外国人」のキャリア支援について考えを深めよう	・当法人が本委託事業を通じて平成29年に実施した「生活者としての外国人」の生活と雇用に関する調査について話をした。 ・調査は当時、定住外国人にもキャリア支援(リカレント教育)を広げたかったという思いがあったこと、その後、調査結果を参考に実施している職業訓練の現状と課題についてお話した。 ・地域日本語教室で拾える声や課題に気づき、日本語教育を超えて、よりよい人生を築くために関わるにはどうしたらよいかについて、参加者の地域でそれぞれに理解者を増やしていく必要性を呼び掛けた	高畑幸(静岡県立大学教授)	コーディネーター1名 作業労務等補助1名
5	令和3年10月31日(日) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	29	フィリピンの教育事情を知り、「生活者としての若者」に対する必要な支援を考えよう	・国の事情が教育に与える影響から、来日前に受けていた教育について理解を深めた ・フィリピンの教育事情について知らない方も多く、本講座は今後の支援活動にも役立つというお声を多くいただいた	足立ネルマ(元フィリピン日系人会会長)	コーディネーター1名 作業労務等補助3名
6	令和3年11月3日(水) 13:00～15:30	2	オンライン zoom	39	「生活者としての外国人」に必要な情報について、提供と収集の側面から考え、関わろう	「情報提供・収集」は日常生活に欠かせないライフラインの一つになっている昨今、有効な情報提供の在り方や情報と日本語教室の関係性から、その役割について検討した。	鈴木恵梨香(HICE)	コーディネーター1名 作業労務等補助7名
7	令和3年11月3日(土) 15:30～17:30	2	オンライン zoom	39	災害への備えを、「地域」日本語教育で取り上げる意義について理解を深めよう	・外国人の東日本大震災被災者から、震災時の様子、震災後に困ったことなどの教えをいただいた ・これに加えて、有識者である松岡先生より「日本語教室・日本語教育の役割」についてご提言いただいた ・いかに外国人も日本人も共通に「自分のこととして捉えて、備えられるか」が必須であり、日ごろの活動において、ともに行動を伴った訓練の機会が重要だが、その役目を地域日本語教育は担えると教えていただいた ・日本人が高齢化している地域においては、外国人が災害時に助けてくれる存在になることも重大な視点としてお話いただいた	松岡洋子(岩手大学教授)	コーディネーター1名 作業労務等補助6名
8	令和3年11月23日(土) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	42	「ことば」の交流が生まれるレクリエーションをたくさん考えよう	・社会教育の領域から、住民同士の交流という視点でことばの教育活動を考えて ・日本語教育を俯瞰的に見て、日本語を使った交流活動がもたらす学びの効果について理解を深めた	萩元直樹(社会教育主事)	コーディネーター1名 作業労務等補助3名
9	令和3年11月23日(土) 15:30～17:30	2	オンライン zoom	42	自主・自律の精神を養うために、学びの履歴を「見える化」してみよう	・学校教育の領域から、自己評価によって自己成長するという教育活動について理解を深めた ・自己成長している学習者の存在に教師が気づけるかどうかという教師の成長についても考えを深めた	成田潤也(神奈川県教育委員会指導主事)	コーディネーター1名 作業労務等補助3名
10	令和3年12月18日(土) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	42	「地域」日本語教育に必要なファシリテーション力を身に付けよう	・「つなひろ」制作の背景 ・「つなひろ」を使った活動事例 ・「つなひろ」を使って、学習者全員で学びを共有するための教案について(一例)	有田玲子(東京にほんごネット)	コーディネーター1名 作業労務等補助1名
11	令和3年12月18日(土) 15:30～17:30	2	オンライン zoom	42	「地域」日本語教育におけるカリキュラム作成で大切なことを学び、それぞれの地域に還元しよう	・「つなひろ」を使って、地域社会とつながるワーク活動の導入事例について ・円滑なコミュニケーションを学ぶ、ワーク活動の意義	有田玲子(東京にほんごネット)	コーディネーター1名 作業労務等補助1名
12	令和4年1月15日(土) 10:00～12:00	2	オンライン zoom	6	フィリピン語スピーチコンテスト	顔合わせ、趣旨説明、スピーチテーマ確定	アバス・只尾・カテリン・キンタロウ・原田・鈴木	コーディネーター1名
13	令和4年1月16日(日) 10:00～12:00	2	オンライン zoom	6	フィリピン語スピーチコンテスト	グループに分かれてスピーチの練習	アバス・只尾・カテリン・キンタロウ・原田・鈴木	コーディネーター1名
14	令和4年1月22日(土) 10:00～12:00	2	オンライン zoom	6	フィリピン語スピーチコンテスト	グループに分かれてスピーチの練習	アバス・只尾・カテリン・キンタロウ・原田・鈴木	コーディネーター1名
15	令和4年1月23日(日) 10:00～12:00	2	オンライン zoom	6	フィリピン語スピーチコンテスト	グループに分かれてスピーチの練習	原田・アバス・キンタロウ・鈴木・カテリン・原田・只尾・鈴木	コーディネーター1名

16	1月30日(日) 10:00～12:00	2	オンライン zoom	6	フィリピン語スピーチ コンテスト	グループに分かれてスピーチの練習	原田・アバス・ キンタロウ・鈴木・只尾	コーディネーター1名
17	令和4年2月13日(土) 13:00～15:00	2	オンライン zoom	15	フィリピン語スピーチ コンテスト	・成果発表、1位～3位・審査員特別賞の発表 ・参加者全員でフィリピン語講座(自己紹介をフィリピン語で練習した)	高畑・米野・ネ ストール・中村	コーディネーター1名 補助6名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8・9回 令和3年11月23日】⑧「ことば」の交流が生まれるレクリエーションをたくさん考えよう／⑨自主・自律の精神を養うために、学びの履歴を「見える化」してみよう

この2つのテーマは単独であるものの、「学社連携」の視点でカリキュラムが連続するように設定した。地域日本語教育は「社会教育」にあたるが、私たち携わる者は「社会教育」の目的や中身をほとんど知らない。社会教育の大事な考え方に「知の循環型社会」というものがあるが、取組をいつもそこに照らしていく必要を感じ、参加者に話題提供も兼ねて、社会教育主事である萩元直樹氏に講師を依頼した。いっぽう、学校現場は「社会に出る前段階」として必要な「教育」が行われる場所である。このことから、「人間としての成長」の本質に向き合うプロからご教示いただきたく、神奈川県教育委員会指導主事の成田潤也氏に講師を依頼した。時代を縦軸(継承)と横軸(連携)で見ると、この両者の視点を同日・同時に検討する機会を得られたことは大変有意義であったと、ここに報告する。

0-3 社会教育を分かりやすく言うと・・・

社会教育とは・・・

学びの力で社会をデザインすること

学びを通じたまちづくり



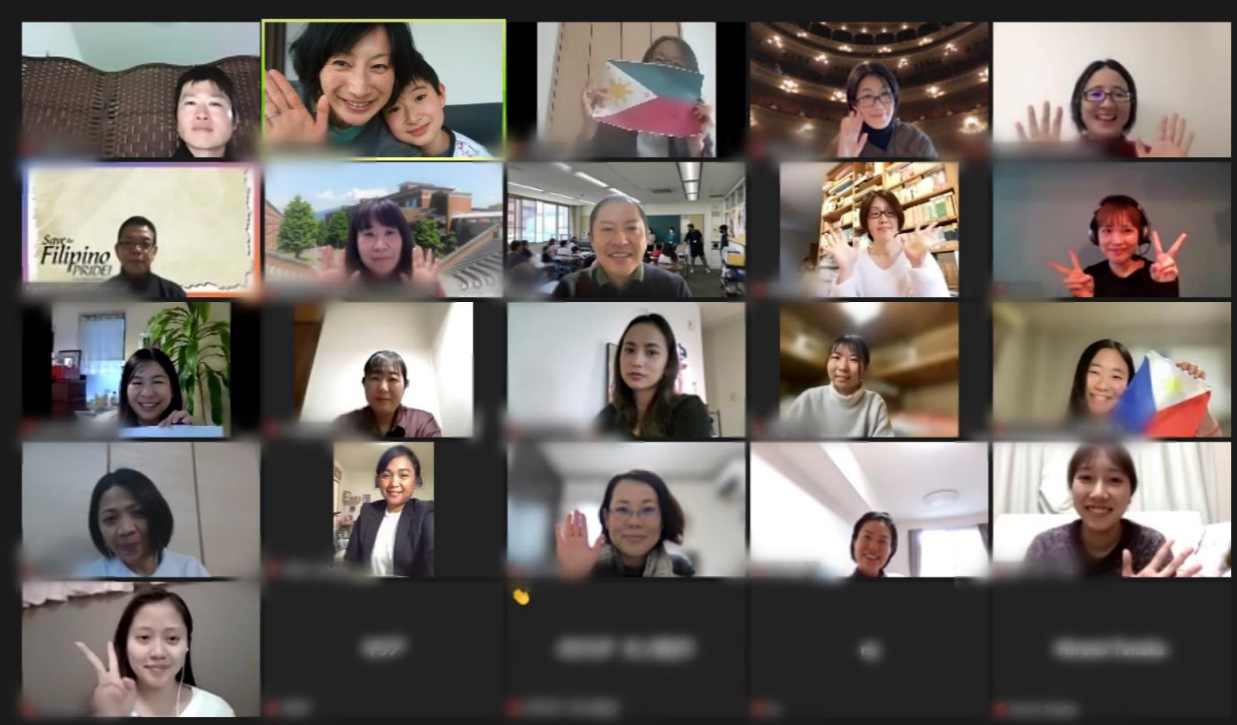
日本語学習でのLapbook活用に向けて

- ・教科書等と連動させて、学んだ語彙や表現を書き留める。
→学びの履歴として
- ・日常生活で見聞きした日本語表現を書き留める。その表現に出会った場所、日時、状況、当時の理解度や気持ちを記録しておく。
→あとで振り返ったとき、「今なら分かる！」などの気づきにつながる。
- ・日本語学習を、ただ「言語の学び」だけに閉じこもらせない。
→「人間としての成長」を実感させる学びに！

○取組事例②

【第12～17回 令和4年1月15日～2月13日】「言語を覚える難しさを体験しよう」 フィリピン語スピーチコンテスト・フィリピン語講座

フィリピン語スピーチコンテストを実施した。「学習者としての気持ちを体験する」ことが狙いにあった。参加者を本シリーズ講座の受講者に呼びかけたほか、第3部として設定した本講座のみの参加も可とした。結果、第1・2部の受講者を含む全9名に参加していただけた。本講座は想定外だったことが2つあった。一つ目は大学生の参加が多かったこと。参加者の属性に特徴があり、全国からフィリピン研究を選考している学生たちが目立った。また、かつて大学でフィリピンに関する言語や文化を選考していたという人もいた。さらに、親子での参加も複数あった。なお、コンテストへの参加は躊躇するが、聴講はしたいという要望も聞かれたので、そのような方々も取り込めるよう「フィリピン語講座」を同時刻内に実施した。これによって、参加者全員で「言語を学ぶ難しさ」を体験した。



(2) 目標の達成状況・成果

いずれのご登壇者からも「フィリピンナガイサの参加者の受講後アンケートは、皆、細かくしっかり書かれている」と評価を受けた。これは、それぞれの地区で課題意識を持った人たちが集まっていることに通じているのだと思われる。参加者はご自身で団体を立ち上げたばかりの方、立ち上げたい方が1割弱いらっしゃる、団体の立ち上げ方や維持についても相談を受けることが複数あった。また、これからボランティア活動をやりたいので参加したいという、経験が浅い人もいらっしゃる、多種多様な方々にご参加いただけたものと感謝している。別紙、アンケートを提出する。参加者からは、「文化庁にもアンケートを通じて、意見を上げてほしい」というお声を伺っている。

(3) 今後の改善点について

地球規模で起きている課題に少なからず影響を受けており、地域日本語教室で向き合う必要を感じている。地方都市は日本人の人口減少のいっぽうで多国籍化に拍車がかかることが予想されるが、「シビックプライド」に目を向けながら、郷土は違えど今は同じ街で暮らす人々と、同じようにその街に愛着を持つという視点で教室活動を展開できないか。これを社会に提言していく。地域における共通の話題やテーマについて意思疎通を図りながら向き合うことで、外国人受講者も日本人(指導者・支援者・住民)も当事者意識を醸成できるという意識のもと、場づくりの大切さを周知していきたい。あわせて、生活するうえで必要な情報などは社会の中で取り残されないよう、行政や各機関と連携し、提供していくことの重要性も外国人コミュニティならではの視点で引き続きしっかり盛り込んで発信していく。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：BAYANIHAN】			
取組の目標	BAYANIHAN		
内 容	【参考教材】 ・文化庁日本語学習動画「つながるひろがるにほんでのくらし」 ・出入国在留管理庁「生活・仕事ガイドブック(やさしい日本語版)」 ・広報はままつアプリ・浜松市「おくやみガイド(やさしい日本語版)」 ・はままつ電子図書 ・静岡県「防災アプリ」・静岡県「地震防災ガイドブック(やさしい日本語版)」 ・静岡県「避難生活ガイドブック(やさしい日本語版)」 ・静岡県立大学制作「食べて健康になろう」教材 ・名古屋入管「やさしい日本語」による情報提供 ・コロナウィルス感染拡大防止に関する情報で教材に使えるもの(フェーズごとに対応) ・ジョブカード活用ガイド(厚生労働省) ・日本版O-NET ・OHBYカード、VRTカード 【教材用としての補足事項】 —情報提供— ・教材の関連事項として、適宜内容に即した情報へアクセスできるよう、QRコードや資料名称などを付記した。 —「つなひろ」を使って— ・どうして、「つなひろ」を使ったのか(経緯) ・「つなひろ」をどのように使ったのか(活用方法・使用教案やポートフォリオに寄せられた学習者の声など) ・「つなひろ」を使った成果 —読解— ・資料の理解度をはかるため、読解問題を作成をした。 —課題— ・「声に出して読んでみましょう」→意味の塊を意識しながら読む練習をしてみることを促す ・「この言葉を調べてみましょう」→適宜、わからないと思われる言葉をアプリで検索するよう促す ・「資料を見ながら日本人と話をしてみましょう」→日本人にも参加を促し、「やさしい日本語」版の存在を意識してもらう／外国人だけが勉強するという立場にならないように配慮する(共通の市民向けサービスという素材を使った)		
実施期間	令和4年5月29日(土)～令和4年3月12日(土)	作成教材の 想定授業時間	1回 2 時間 × 30 回 = 60 時間
対象者	定住フィリピン人	教材の頁数	60 ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案とガイドブックで、本事業の趣旨と目的を理解したうえで、教材を作成した。		
事業終了後の教材活用	その後の教室活動で利用したり、当法人のホームページやFacebookグループページ「フィリピンナガイサ日本語(FNN)」に掲載し、自由に閲覧できるようにする。		
成果物のリンク先	https://filipinonagkaisa.org/		

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと ・体験と交流を通じた日本語教室を展開し、日本社会の中で「できること」を増やすこと ・公的機関が発行する「やさしい日本語版」の文書を教材にし、サバイバルで身に付けた日本語を整理すること ・いずれの教室活動の中でも自律学習のアドバイスを取り入れ、教室の外でも学習者が学べる力をつけること ・教室内容を録画配信することで、クラスに来られない「生活者としての外国人」も取り込むこと ・フィリピン人が集住する地区に教室を設置し、生活情報を題材に地元住民との交流を図ること (浜松市が実施する「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業(文化庁委託)」のカリキュラム修了直後から、同会場にて継続実施) ・公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、多様化している外国人の来日背景や在留資格などの状況を、地域全体はもとよりオンラインを使って全国規模で理解すること(人材育成事業)
--

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標について、ひとつでも多くを達成できるよう工夫した。具体的には「個人の学び」と「関係性づくり」の2つの柱を明確にし、それらに対して新たにポートフォリオとワーク活動を取り入れることで、従来の方法を改善した。ポートフォリオを用いることで評価は「自己評価」を基本とし、個人が学びの記録を手元に残せるようにした(教材作成にて別途、報告する)。また、現場での教師育成(継承)は今年度、ファシリテーション役に必要な項目を見える化したので、次年度は積極的に運用していきたい。
・人材育成講座は日本語教師の自己理解(自己研鑽を含む)を深めることについて目標に入れていた。アンケート結果では多くの方が毎回の受講に際して、たくさんの気づきをレポートしてくださった。学びを言語化していただき、事務局も拝見する機会を得て、私たちとしても学びが深まり、教室改善の参考になった。
・日本語教室と人材育成講座については、別途、受講者アンケートを提出する。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』に示されている日本語教育の目的・目標のうち、今年度はとくに「意思疎通」「相互理解」の文言にも言及する取組を意識した。
・『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用ガイドブック」p.37以降、「活動方法の例の具体的内容」より、とくに「タスク～解決すべき課題を持った学習活動～」に注目し、そのタスクを複数織り交ぜて実施した。また、学習者・指導者だけでなく「協力者」にも働きかけることを重視した。
・「つなひろ」の活用を通して、『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』に記載されている能力記述を重視し、教案作成に役立てた。
・『生活者としての外国人』に対する日本語教育における日本語能力評価について』のp.72以降、「毎回の学習の記録・今日学習したこと」のフォームを編集し、本講座のポートフォリオとして活用した。
・『生活者としての外国人』に対する日本語教育における指導力評価について」を、コーディネーター・教師は自己評価の参考にした。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

【日本語教室】 ・「施設見学・防災ツアー」で、協働センター長に協力を仰いだ ・静岡文化芸術大学の日本語教育実習生を受け入れた。次年度も依頼を受けるに至った ・地元幼稚園と連携し、周知したところ、教員や保護者が浜北クラスに参加した。またさらにクチコミで民生委員の方も様子を見に来てくださった(浜北クラス) ・土業の先生に協力を仰ぎ、在留資格や税金といった専門的な内容についてご指導いただいた
【人材育成】 ・講演に先立ち、浜松市と(公財)浜松国際交流協会HICEにご後援や共催の協力をお願いした。これによって、全国はもとより地元からも新規参加につながった
【教材作成】 おもに、公的機関の資料を教材に活用している。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

【日本語教室】 ・昨年度、来ていた生徒たちに声をかけた ・他事業を受講中の生徒たちに別曜日である、本取組を紹介した ・当法人が持っているFacebookコミュニティに、開講の情報提要した ・スタッフや参加者によるクチコミ(信頼関係から参加に結びついた)
【人材育成講座】 ・昨年度の受講者に一斉メール配信で、参加を呼び掛けた ・当法人のホームページに募集告知と事業成果報告を掲載し、それを個人、全国の国際交流関係団体のFacebookを通じて拡散した(拡散は人づてに繰り返され、新規参加に結びついたり、団体の信用に貢献した) ・拡散されたチラシをSNS上で見て、全国から「日本語教育団体を立ち上げたい」という意志を持った方が複数参加された。講座は団体の立ち上げ・維持に関する相談の役割としても機能した。 ・文化庁NEWSにも、周知の協力を仰いだ

(6) 改善点、今後の課題について

・学習ニーズがより細かくなっていることを実感している。例えば青年クラスでは滞在年数が長くなり、「会社からJLPTを受験するように言われた。先生、教えて」と言っただけで在籍していた若者が本教室を頼って集まってくる。いっぽうで来日したばかりの若者も混在している。これらすべてに対応するには、これまでも進め方を変える必要があり、次年度、改善していく。
・青年クラスではここ数年、フィリピン以外の国籍の人からも参加したいと相談を受けることがある(当法人は参加に国籍の偏りはあるが、制限はしていない)。「最近、南米系の人学ぶ場所が減った」ということである。
・中区クラス・青年クラスともに浜松市だけでなく近隣市からの参加も増えている(東は御前崎～西は豊橋市)。ただし、まん延防止措置の際には参加をご遠慮いただいた。
・浜北地区での課題は、外国人住民数と周知のわりに教室への参加者が少ないことである。このことから、地域住民へ協力を呼びかけづらい(確約しづらい状況が多いため)。まずはフィリピンをはじめとする定住外国人の参加率を上げるための工夫をすること、次に近隣の住民や機関に協力を仰ぐこと、次年度から段階的に着手していく予定である。最終的には郷土愛(生まれ育った土地)とも微妙にニュアンスが違う「シビックプライド」の考え方を日本語教室に取り入れて運営できないかと検討している。本事業の目的・目標にも掲げられている「意思疎通」「相互尊重」をもって、「シビックプライド」がもつ「当事者として自身が暮らす街に誇りを持つ」という考え方が、日本社会に波及するよう醸成を図りたい。「生活者としての外国人」が地域の中で孤立することがないように、地域の有識者(大学教授)を交えて段階的に計画・実行していく予定である。

(7) その他参考資料

・チラシ(バヤニハン中区／浜北区前期・後期／人材育成講座／フィリピン語コンテスト)

・アンケート(日本語教室・人材育成講座)

・第一回～第二回 運営委員会の報告(※第三回目の報告は4月中に致します)

・教材(※4月中に当法人のHPに掲載します)